



海のたより

10月早朝レース、スタート直後
優勝アルミスとダンシングの競り合い

目次	行事予定
表紙 10月早朝、佐久島レース	11月20日 ラグーナ合同レース
P 2 アルミス5優勝記	MCC11月ポイント
P 3 参加艇の一言コメント	スモール11月ポイント
P 4、5 全日本社会人大会、中電チーム優勝	11月26日 外洋東海年末パーティー
P 6 東海チャンピオンシップ報告	12月10日 MCC年末パーティー

アルミス5 佐久島レース 優勝記

スキッパー：金田

最近のレース予定日、強風だの微風だので、なかなかレース開催がなされなかったのが久しぶりにレースに行けることに心弾んだ日曜日でした。

偶然にも、佐久島レースの前日に佐久島クルージングに行くことになり、ちょうどレース前の下見？にいいなあと思ったけれど、なんとクルージング当日は無風機装で佐久島を往復する始末。おかげでスナメリに沢山出会うことが出来てゲストは大喜びでした。さて、レースの話。前日の無風と打って変わりアルミスにとってはベストコンディションな風速レンジ。メンバーは一人寝坊で間に合わなかったけれど、5人集まった。



スタート5分前風向はスピンを揚げれる角度ではないだろうと判断し、ヘッドセイルはN01 ジェノアに。スタート後にスピンホイストがあっても良い様に、一番風上からスタートするように決定。

スタート1分前、岸壁よりを思いっきりポートタックで上り、スターボにタックを返してラインを超えないようにアプローチ。そして スタート！！ホーネット艇、ダンシング艇にスピードが劣っていた為か、3番手にてスタートラインを通過。

豊橋マークまではアビーム。アルミスにとっては一番稼げる角度と思ったが、中々先行艇に追いつくことが出来ない。逆に後続艇のうらなみ艇にはスピードで負けている。結局 豊橋マーク回航は、3番手。

豊橋マークから佐久島のアプローチは、真上りより少し落とした角度。先行するダンシング艇の影響を避ける位置関係で追いかける。ホーネット艇はさらに上る角度で岸よりに先行している。豊橋から佐久島まで半分ほど走ったところでは、ホーネット艇を下から見た感じだとスピードはこちらの出ているようだ。

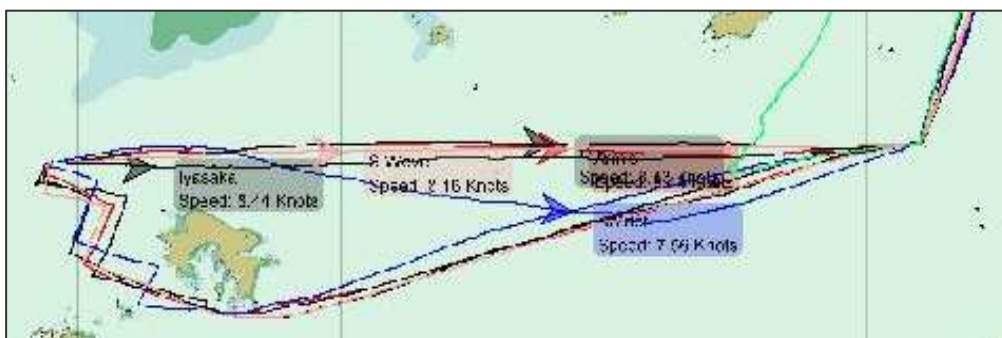
佐久島の東の灯台での位置関係ではホーネット艇より若干 前に出た。しかし、ジェノアでは、佐久島から生田マークまでは、ブローチングに耐えられないと判断して佐久島の島影でヘッドセイルを交換することにし、N03ジブにチェンジ。もちろん その間にホーネット艇は先に行き、ダンシング艇もさらに先に行き、引き離されることに。

しかし、佐久島の西側航行時 ホーネット艇はかなり下の方に落ちている。ダンシング艇は佐久島寄りに、中間地点にアルミス。その位置関係のままスターボで進む。ヘッダーが良く、上り角度が稼げ、生田マークまで片上りでいけちゃうんじゃないかと喜ぶのもつかの間。生田マークと思った赤浮標は、定置網？のエンドマークだった！気づいたと同時に、目の前に黒ブイが山ほど見えて、危うく、網にかかるところでタック！ 久しぶりに緊張感を味わうことに。ポートに返したのが波の影響もなく、このタックが良かったのか。マークアプローチに入る為スターボに返した時には位置関係で先頭に

そのまま生田マークを回航。豊橋マークまではまたアビーム。後続艇のダンシング艇はジェノアにセイルチェンジしてる。それを見て、こちらもセイルチェンジでN01 ジェノアに ホーネット艇はスピンランでかなり下に。長い豊橋マークまでは、アビームにて10ノット強のスピードをキープ。しかし、豊橋マーク前には風も少し落ちてきた。8ノットでるかどうか。

豊橋マーク回航後はまた上りになるだろうと思い、N01 ジェノアで良いだろうと決定し豊橋マークを回航する。しかし、風が落ちるどころか、また上がって来た。ブローチングを何度もくらいながらも無理して走らせる。セイル交換したいがまたセイルダウンしてから上げるとなると、メイン帆走だけの間にすぐ後ろのホーネット艇に

抜かれるんじゃないか？しかし、ホーネット艇を見るとメインセイルしか上げていない。これは、こちらも、セイルチェンジするチャンス！落ち着いてジェノアを下してジブを上げる。さっきまでの苦しいヒールがうそのように、気持ちのいい走り。



もっと早く交換しておけば良かった～♪ もう大島の横なんだけど (笑)そして、ゴール前の海域で練習を行っているインカレのディンギーを避け、ゴールに流し込み。結果、着順1位。お疲れさまでした。
今回は、アビームからクロスの風域と微風域がなかったのが、良かったのかなあ

佐久島早朝レース、総評

ついこないだまでは暑かったがようやく秋になった10月早朝レース。艇長会議の6時には明るいが各自家を出るには真っ暗な時期だ。風は北西風で白波はない、手ごろな風が吹き続けてくれそうだ。

スモールの弥栄が参加し6艇、コミッティーのスーパーウェーブは10分遅れのスタートで参加。

途中風が上がりタイミングを見ながら各艇セールチェンジ、豊橋の1位はホーネット、佐久島はダンシング、生田はアルミス。マーク廻航毎に上位3艇それぞれ順位が入れ替わるデッドヒートが続いた。

結果はアルミスが優勝、ホーネットの年間総合連続優勝は難しくなった。

セール	艇名	TYPE	MRC	到着時刻	着順	所要時間	修正時間	順位
4774	Armis 5	J/V9.6CR	1.010	11:32:15	1	4:32:15	4:34:58	1
5791	Hornet	Seam 31	1.011	11:35:15	2	4:35:15	4:38:17	2
5933	Dancing Beens 3	Seam 31	1.009	11:36:43	3	4:36:43	4:39:12	3
5550	Super Wave 6	Slot 31	0.984	11:56:11	4	4:46:11	4:41:36	4
6764	IYASAKA	Aiolos 26	0.904	12:28:15	5	5:28:15	4:56:44	5
5404	Uranami 8	J92	0.988	DNF				6

各艇コメント

アルミス

豊橋マークまで速度に乗せられず3位廻航となりました。

佐久島の手前でセール交換に手間取り遅れをとりましたが生田へのアプローチでゲイン出来挽回できました。

復路ではスピンを揚げずジェノア+バーバホーラーで丁寧にトリムし速度の維持ができたと思います。

何度もあったヘッドセールの交換で疲れたレースでした。来月もよろしくお願いたします。

ホーネット

佐久島に近づくにつれ北風が吹きあがってきてダンシング、アルミスと一緒に再スタート状態に。

そこから生田鼻に向かう上りの走りが悪く少し置いて行かれてしまい3番手廻航。

生田から挽回を狙ってダメもどでスピンアップ。角度がきつく苦しい走りだったが豊橋までにダンシングを抜くことができ、そのまま2位でフィニッシュとなった。

20kオーバーの風が吹いて、スピンランもできていい練習になった。

ダンシングビーンズ

今日は2人がドタキャンで4人での参加。風が上がらないのを祈りつつスタート。

豊橋まではホーネットの真後ろにつき離されず何とか付いて行けた。佐久への途中、風が上がってきてNo1ではつらくなり、佐久から生田へ向けすぐタックしセールをNo1から3にチェンジ。生田はアルミスに続き2番手で廻航。豊橋への下りでアルミスに大きく離され、また、豊橋マーク手前でホーネットにも抜かれ3番手廻航に。このままフィニッシュ。早いレース展開でとても楽しいレースでした。お疲れさまでした。

スーパーウェーブ

今日は4人での参加。きつかったですね。

良い風が吹きコミッティーの10分遅れのスタートはボーナスポイントにならず、残念。

弥栄

事前の想定に反し強い風に悩まされた。

佐久島での上りが大変であったがその後の豊橋沖までのリーチングは快走。

皆に見せてあげたいと思いますがすでに全艇前方遠くに行っちゃってしまっており.....

うらなみ

佐久島への上りでバックステイが切れてリタイアをしました。残念。



第11回 全国社会人大型艇大会 優勝！！

中部電力ヨット部 (南原)

全国社会人大型艇大会は今年で11回目、中部電力チームは第3回から9年連続参加している。レースは、初日に参加8チームを4チームずつに分けて2グループで予選(各3レース)を行い、翌日に5~8位決定戦と決勝戦(各3レース)を行う。コースは上下×2の4レグで、スタートラインとフィニッシュラインは共用のシンブルなもので、上まで0.5マイル程とかなり短くディンギーレースの延長のような感じである。艇は葉山マリーナの日本セールトレーニングがイーブンコンディションに管理しているY-30Sをレンタルすることもあり、会場は葉山と決まっている。

10月22日(土)、大会1日目、予選、4チーム3戦

予選の前半組は中部電力(中電)、マツダ、三菱重工名古屋(三菱)、三井物産の4チーム。午前8時集合でレンタル艇の準備を開始。メンバーは7人、強風になると少しつらいかも。レースは9時半第1レーススタート予定が少し繰り下げて10時スタートに。風は北東3~4m、葉山は北から東が陸なので、波は立たないけど振れも強弱もあって手ごわそう。

第1レース、スタートは艇団の下から良いスピードで出て先行。上マークではマツダと中電が前に出てそのまま最後まで大きく順位は変わらず、マツダ-中電-三菱-三井物産。

2レース目は、スタートでマツダを虐めてはみたものの、その後のスピードが不足気味&風の振れと強弱に悪い方にはまるコースを引いてしまって、マツダが独走1着、続いて三菱-中電-三井物産。三井物産はスピンを上げずに走っているため遅れて4着(後から聞くと、スピンを上げたことが無く、仕舞い方がわからなかったような)。この時点でマツダの決勝進出と三井物産の下位グループ行きが決定し、中電と三菱は次のレースで勝った方が決勝行きという半マッチレース状態になる。

第3レース、中電はセーフティーに上艇団の少し下のフリーなところから左海面に、そのほか3艇が上にひしめき合い、走り負けした三菱はタックして右海面に。一時は左に振れて大きく勝っているように思っていたが、逆への振れも入って上マークでは混戦となって、マツダ-三井物産-中電-三菱(2~3艇身差)。このままリードを保ちたいところであったが、**スピンハリアードが逆旋のスプレッダーに絡まる痛恨のトラブル発生**、スピンアップが遅れる間に三菱に抜かれてしまう。さらに悪いことにすぐ前でスピンを上げていない三井物産を追い越せず下マークに。回航後、ポートのクローズで並ぶと、**三菱まで約4艇身、しかも三井物産が間にある大ピンチに**。このままでは勝機は無いのでまずタック。すると前の2艇もタック。それを見てもう一度タック、すると三菱だけがタック。どうやら三菱はこちらをマークしているようだが、それでいてタイトカバーでコントロールしてくるわけではなくて受動的な対応。それならこちらから能動的に仕掛ける。少しの振れ・ブローに合わせて細かくタックを繰り返すと三菱もタックして付いてくるが、こちらが先に風に反応している分、徐々に艇間が縮まり、上マークの少し手前で約2艇身半差。この後、三菱はレイラインに乗ることを優先しこちらのマークを外してスターボのレイラインに。しかしそこで三井物産を避ける形になってロスが生じる。一方、中電が向かったポートのレイラインにはブロー。この結果、マーク回航時には三菱の直後まで接近することに成功した(ジブトリムに入った富田さん、おつかれさまでした)。回航後はミスなくスピンを展開し、スターボのランニングで三菱の下側に平行な位置まで持って行く。これで航路権がない三菱はベアもジャイブもできなくなり、完全にコントロール下に置くことができた。三井物産が予選通過に関わらないことを理解したうえで、フィニッシュライン側を保持したままジャイブを引き延ばして両艇とも大きくオーバーセールさせた後、三菱より先にジャイブし、わずか半艇身ほど前に出てフィニッシュ(マツダ-三井物産-中電-三菱)。**劇的な展開にチーム一同大興奮**。

これにより3連勝のマツダとともに、中電もギリギリのとこで決勝ラウンド進出が決まった。

予選午後組からはNTT東日本(NTT)と電通が決勝ラウンド進出を決め、決勝ラウンドは昨年と全く同じ顔ぶれとなった。

レース後、恒例の質素なレセプション(予算はひとり500円)のはずが、なんと、ビールが山ほど。実は、ワイドショーを賑わせている某社チームが、お詫び(もしくは口封じ?)に差し入れしてくれたということだった。おかげで飲める人は大満足。飲めない人はメインディッシュの葉山コロッケを頬張る。

10月23日(日)、大会2日目、決勝戦、4チーム3戦

この日は午前中に5~8位決定戦をして、そのあと乗り換わって決勝ラウンドをするので、決勝に出るチームは10時半集合。ゆっくり朝ご飯を食べて会場入り。風は昨日より吹いていて、10m弱。家庭の都合で1人減なのが痛い、ウエイトのことは何ともならないので残ったメンバーで入念に役割分担を確認しておく。みんないつもと違う役割も受け持つので、トラブルなくこなせるように後ろからうまくコントロールしないと。

そのあとは待ち時間になって、余裕やな~と思っていると残念なお知らせ、「乗り換え予定の艇のスプレッダーが

が折れたんで別のレンタル艇を準備してくれ」と。急に慌ただしくなって、艀装の準備、下架、セールアップ（主催者から1ポン指示）を終えたころには準備信号が（汗）。

第1レース、ラインの見通しだけ取って下寄りからスタート。風が上がっているのでウェザーヘルムが強め。風向が昨日と近かったので、同じような展開をイメージして左海面を行くと、道中はブローで伸びて前が出るが、最後は右のかなり奥まで伸ばしたNTTがトップ回航。でもスピンを上げるとNTTはピークが下にあって失速、ラッキーで下をトップ回航。2上はトラベラーコントロールを入れてウェザーヘルムを改善。そのまま1位を守ってフィニッシュ。幸先良い。着順は、**中電-電通-マツダ-NTT**。

第2レース、やっぱり下寄りから出て左海面を使う。1上は今回も右奥まで行った電通がトップで続いて2位。1下も2位で回るが、2上では右寄りに走ったマツダに1艇身先行され3位に。回航後両艇ノージャイブでスピラン、中電が下からオーバーラップしたり切れたり展開。まだマツダにリードされているが、このまま走れば昨日の三菱戦のように勝てる。問題は反対海面に出した後続のNTTには抜かれないこと。ここで一計、マツダには「ジャイブできないよ」とコールし、同時に自艇内にはジャイブ準備。マツダのバウがポールチェンジの準備ができていないのを確認し出し抜いてジャイブ。反応が遅れたマツダを半艇身リード、NTTにも抜かれずなんとか2着を確保。このレースは、**電通-中電-マツダ-NTT**。

ここで成績の確認、電通と中電は2位以上が確定、**次のレースで勝った方が優勝**。

第3レース。風は明らかに右に振っており、先ほどまで翻弄された右の風が全体に入ってきた感じ。予告信号後、電通に寄せて追い回す。でも、スタートで潰して勝とうという発想ではなく、相手にコントロールされないように。1分前に電通がアウトマーク側に流したので離れて上目でスタート。今回は右海面に伸ばすため早めにタックし、上1で出たマツダをベアして避ける。ところが同じくタックしてきた電通はマツダに対し下受けして左に。電通はこの後もマツダと絡んで遅れていき、1上はマツダ-中電-電通と先行。そのまま1下もマツダ-中電-電通でほとんど差なく回る。そこで最初にタックしたのが電通、なぜかすぐにマツダもタック。労せず右海面が開けてラッキー、そのまま右中心に展開しリードを守って電通の3艇身前で2上回航。回航後はいつも通りベアからスピナップ。でも後ろで回った電通は即ジャイブアップ。正直、この発想が無かった。よく考えれば右に振れているのでジャイブがプロパーコース、さらにブローも降りて来ていて電通が近づいてくる。チームメイトからも「大丈夫？」と不安の声。本当はかなり焦っていたが、3艇身のリードを活かして冷静に状況を整理。まずジャイブは必要だ、ただし今すぐ急いで始めるとトラブル発生の原因になりかねない、それにジャイブを早めると電通の真下に近いのでブランケットをもらう可能性もある。そこで、一息ついて落ち着いてからジャイブ、トラブルなく完了。この時点で1艇身は詰められたかもしれないがまだリード、少しオーバーセールになったぶんでフィニッシュライン前にはもう1艇身詰まったが、**先行したままフィニッシュ、優勝決定！！** 電通が、「おめでとう」って言うってくれる。ありがとう!!

今回が9回目の出場で念願の初優勝、2回目で3位入賞もしたし、決勝ラウンドも常連だったので優勝もすぐに取れると思っていたが、そう簡単にはいかないものだ。

特に今回は、予選ラウンド敗退のピンチからの大逆転や、強風下で人数が少ないなど、勝てるとは全く思っていなかったのだが、振り返ってみて勝因を挙げると、

・ミスが少なかったこと

全員での練習が出来ていないので確実性を重視した結果、思いあたるミスは予選3レース目でスピナリがスプレッダーに絡んだのみ。ミスが少ないことで次の動作に集中できさらに正確性が増す好循環を生んだ。スピナが1度も提灯にならなかったことも良かった。

・複数のポジションをこなしたこと。

特に2日目は本職以外の役割も求められたが、各自がそれなりにこなせる技量があった（練習してきた）うえで、レース前にメンバー全員で役割確認をして、レース中に誰が何をしているかを把握していたので、必要どころにスムーズに手伝いに入った事。

・順位を正確に把握していたこと。

予選・決勝とも着順を控えて得点状況を把握しており、成績が決する場面で相手が誰かを絞ることで、成績に関わらない艇との問題が発生しなかった。予選で三菱が三井物産と絡んだり、決勝で電通がマツダと絡んだりしたのと比べてロスなく走った。

最後になりましたが、いつも練習を手伝っていただいた北河さん、練習艇を貸していただいた二村さんに感謝申し上げます。



ホーネット頑張りました！

外洋東海 東海チャンピオンシップ4位

年間総合2位

10月30日、11月5日、6日の3日間でラグナマリーナの沖で開催された東海チャンピオンシップレース。同じ時期に海陽ヨットハーバーで全日本学生ヨット選手権大会が同海面で開催され、我々はかなり南寄りの海域に移動し実施されました。(ホーネット中村記)

10月のMCC早朝、佐久島レースでアルミスに負け年間総合の4連勝が難しくなってしまう気落ち。外洋東海のレースでは昨年年間総合優勝したものの今年はエリカカップの優勝はあるものの他のレースが勝てず今一です。東海チャンピオンシップの始まる前に年間総合の順位を確認したところ3位の位置をキープ、1位のパラフレニアンには手が届かない差だが2位のブーメランとの差はわずか1.5ポイント。ここは一番、頑張れば2位に浮上できる。やる気を出してレースに挑戦しよう。

3日間の要員を集めて何とか確保、初日は7人、あと2日は8人の目途が立ちこれならまず大丈夫。そんな時に中電チームの全日本社会人大会に優勝の朗報もはいり益々ハイテンション、今回は打倒ブーメランで臨みたいが、相手はブイ回りにはめっぽう強いチーム、昨年の東海チャンピオンシップは優勝している。4位のナルミも気にしながら厳しい展開が予想される。

初日、30日は微風の予報で何レースこなせるかが気になるところ。やはり第1レースは風少なく延期信号。風待ち1時間、ゼネリコのあと再スタート。着順は4位、6位だが差は少なくたぶん負けたが十分勝機はあるとみた。(成績発表、修正では4位、3位で負け。)

第2レース、やはり振れる風を広いながらブーメランを気にしながらのレース、終始リードしながら走り今回とは思ったが2上を3位でシエルボと同時廻航。この廻航で判断ミス、ジャイブセットで左海面に向けたが風は・・・あわててジャイブし戻したが・・・後続艇は悠々とポートタックで先行していく。着順8位がっかりするが捨てレースと思いきを取り直す。(修正では7位、2位大差で負け。ミスなくとも負けていた。)

風はそこそこあって14時半、3レース目のスタートができた。今回も終始リードしながら走る。3レグ回りから風が弱くなりだした。後続を注意しながらコース取り、大きなミスもなく4位をキープ、先行艇と離れるが後続とも離れる。ようやく1勝した。(修正では4位、5位)1勝2敗、後半に望みをつないだ。

5日4レース目はショートディスタンス、佐久島回りのレース。このレースに勝たなければ明日はない。風予報は4-5m、晴天の絶好のレース日和だ。コースはスタート後渥美の観測ブイを回り佐久島を時計回りし豊橋観測ブイを回ってからスタート位置に戻る約25マイルのコース。スタートはウェザーマーク無しのフリースタート。予報より強めの風、No1かNo1.5か選択に迷うところ、第1レグはフリーで10マイル、No1に決めた。



渥美マークへ一直線、上側の艇団

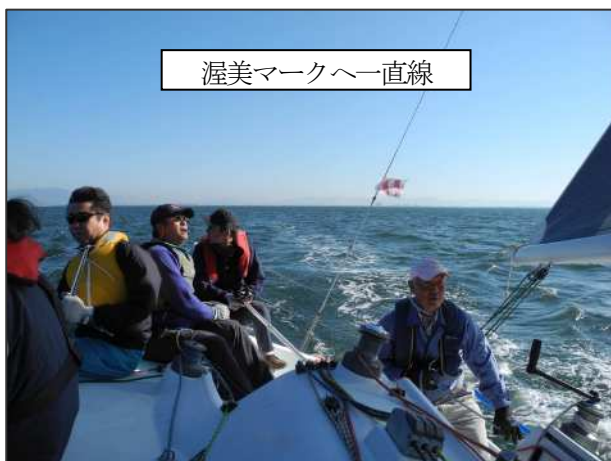
スタートでリコール旗、パラフレニアンとシエルボが戻っていく。我々は中段から下にサイキ、上にエルドラード、ダンシング、ブーメランと続く。渥美マークまでは一直線、10度くらい振れたり戻ったり強い時も弱い時も・・・渥美マークはほぼレーティング順に廻航、我々はサイキに続いて8番手廻航。風は少し落ちた。すぐにタックし北へ、このコース選択は正解、佐久島南でのミーティング時にはナルミの後シエルボの前。5番手に躍り出た。佐久島の西端、波ヶ崎では3艇で競い合い、そのまま佐久島北側へ、シエルボ、ホーネット、ナルミの順で廻航。スピンランになった。長さには勝てずナルミに先行されるがシエルボの走り悪く5番手でフィニッシュできた。後続とはかなり離れたようで楽勝。(3位、6位)明日は強風予報、ブイ回りが勝負だ。

6日、最終日は予報通りの強風、30kが吹いている。思わずメインリーフをしてスタート海面に、本部船はアンカーリングに大変だ。それでも予定通りにスタート。25k以上が吹き第2レグ、スピンを躊躇したが風は落ちた。慌ててスピンアップ準備、後続のブーメランに抜かれしまった。そんな中でメインのリーフも解いて何とか下マークを廻航。ジブは変えられずNo3、まだ強めの風の中、ブーメランを追いかける。我々はタックし左海面に、再びリードし上マークを廻航したが差は広がらず修正で負け。(6位、5位)

第2レース、これが成立すれば捨てレースができる。頑張ろう。風は落ちたと思ったがスタート間際にまたまた20k、ジブの選択に迷ったがNo2に決定、頑張ろう！このレースも終始リード、少しずつ差を広げ順調に推移。今回は勝てたはず。これでブーメランに勝てるはずだ。ヨッシ！（4位、8位）

11時過ぎたのでランチしながら本部船の動きを見る。風はまた強くなり振れている。少し沖に移動。何度も打ち直している。コミッティーも大変だ。風が強くなったのでNo3に変更。時間余裕のないスタートだったが良い位置をキープ、波の悪い中スピードに注意しながらスターボーを伸ばす、下にシエルボが平行、やや先行しながらスピードも負けずに抑えている感じ。エンドまで行ってタック、上れるつもりが風が振れてダンシング、ブーメランに先行された。もう一度タック、タックしマークでミーティング、強風の中4艇が競り合いダンシング、ブーメラン、シエルボに続く、すかさずスピンアップ、強風で思わず力が入る。結果はトラブルなくアップでき先行できた。ところがジャイブで失敗、ちようちんに。トライするが直らずスピンドウンしジャイブ、なんとかコースを維持できた。周りを見るとマスト折損艇が居る。シエルボだ。ダンシング、ブーメランは後ろだ。強風の3レグを上り最終レグ、スピンアップをしようとしたが先程のトラブルに躊躇、後続もそれなりに離れた、うまくいけば勝てるはず・・・だ。スピンをやめてのダウンウインド。フィニッシュ様子を見る。ダンシングには勝てるがジェネカーをアップしたブーメランには無理だった。(10秒の不足で4位、3位) 今日でも1勝2敗、点差の勝負で勝つか負けるか・・・

ブーメランとの勝負は3勝4敗。結果はディスタンスの勝利とブーメランに違反行為がありかろうじて逆転できました。レース前の目標、ブーメランに勝ち年間総合2位を獲得できました。



JSAF外洋東海レース年間成績 2016

IRC		三河湾周遊		五ヶ所湾合同		エリカカップ		パールレース (係数1.5)		デニスコナーカップ		東海チャロオンシブ (係数2)		年間 合計得点	順位
順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
JPN 4004	PARAPHRENIAN	1	10	7	3	6	4	3	10.5	1	10	1	20	57.5	1
JPN 5791	HORNET	8	3	4	6	1	10	4	9.0	10	3	4	12	43.0	2
JPN 5131	BOOMERANG	3	7	1	10	2	8	8	4.5	8	3	5	10	42.5	3
JPN 6352	SEA FALCON	5	5	5	5	OCS	2			3	7	2	16	35.0	4
JPN 5055	NARUMI	4	6	2	8	OCS	2	5	7.5	6	4	8	6	33.5	5
JPN 4976	CIERVO	7	3	3	7					4	6	3	14	30.0	6
JPN 6687	JOKER					OCS	2	1	15.0	2	8			25.0	7
JPN 2500	HORIZON 6	2	8					2	12.0	7	3			23.0	8
JPN 5933	Dancing Beans III	9	3	6	4	8	3			12	3	6	8	21.0	9
JPN 5563	ELDORADO VI	6	4			7	3			11	3	9	6	16.0	10



MCC海のたより11月号・MCC海のたより11月号・MCC海のたより11月号